

第百回楽々俳句会(ちば)

令和五年十月十一日(水) 晴

吟行：美浜園 十一時三〇分海浜張駅集合 投句三句

句会場：松籟亭十三時〜十六時

五句選

- 武久 1 3 秋探ぐる浅瀬に群るる鯉の口
- 武久 1 1 揺れたくて風を離さぬ秋さくら
- 久武 1 美浜園風の遊び場木の実落つ
- 久 4 百回の句会言祝ぐ爽気かな
- 武久 1 4 借景の映えるフोट婚秋日和
- 武 1 2 菊日和抹茶に映える句座の菓子
- 久 1 のんちやんの乗つていそうな秋の雲
- 久 1 鯉の影曲線幾重水の秋
- 久 2 立ち話長くなりそう秋の芝
- 武 2 爽籟の遠き日の浜大力船
- 久 2 爽やかな仕立て上がり男松
- 久 1 こぼれ落つ紫の実は波紋なす
- 武 1 ビルの囲み庭園や薄紅葉
- 武 1 テラス席赤らむ頬に秋の風
- 武 1 秋色変えず尖塔の窓数多なり
- 武 1 秋蝶や吹かれて翔びて池渡る
- 武 1 3 友逝きて雲となりか万珠沙華
- 武 1 2 松手入れせし庭園や抹茶濃し
- 武 3 新都市の秋の庭園記念句座
- 武 2 茜さす花嫁列車の秋簾れ
- 武 2 水の澄み餌乞うことき鯉の群
- 武 2 水底に鯉の道見え秋暑し
- 武 2 櫓のきしみ波の間に間に秋の声
- 武 1 星ひとつ風にまたたく月夜かな
- 武 1 前庭の松や木橋や秋催すい
- 武 1 鱗雲銚子の浜の大漁旗
- 武 1 秋句会都会オアシス美浜園

- 恵美子
- 洋子
- 粹歩
- 粹歩
- ミチ子
- 恵美子
- 成子
- 宣子
- 成子
- 武彦
- 豊隆
- 久登
- 信雄
- 成子
- 園子
- 利太郎
- 久登
- 恵美子
- 信雄
- ミチ子
- 洋子
- ミチ子
- 園子
- 武彦
- 弘子
- 宣子

曼殊沙華

- 1 初冠雪やはり富士には雪が合ふ
- 1 石垣の歩の通り道鳳仙花
- 1 丸木橋訪ねる人は秋のよそほい
- 1 救急の音遠退きて蚯蚓鳴く
- 1 秋日和明日できること今日はせず
- 1 秋澄むやさらさら流るる音寂し
- 1 爽やかや抹茶のお手前和菓子かな
- 1 秋茄子やフランスパンの長さかり
- 1 秋蝶のふはりふはりと芝地かな
- 1 秋の空着陸態勢夢終る
- 1 秋の空着陸態勢夢はつる
- 1 秋うらら木々に風音清かなり
- 1 箸で食べるペペロンチーノ秋深む
- 1 今年酒句会記念に乾杯す
- 1 前庭の水辺に寄りぬ秋の蜂
- 1 照り紅葉いま少しなり美浜園
- 1 朝霧に包まれ船の朝汽笛
- 1 朝霧に包まれ船の汽笛かな
- 1 野菊摘み形整え押し花に
- 1 押し花の形整う野菊かな
- 1 成子・洋子・恵美子・育子・ミチ子・園子・弘子・静代
- 1 利太郎・粹歩・豊隆・信雄・武彦・久登
- 1 欠席 今日 投句のみ・宣子
- 1 予定
- 1 十一月九日(木) 九時 千葉神社集合 十時句会 活動センター
- 1 十二月十四日(木) 九時 登渡神社 十時参集殿 句会&茶話会

弘子 歩は要らない

豊隆 訪ねる人の行き先が不明

成子

育子

信雄

園子

洋子

久登

静代

字余りでも飛行機雲と言いつる

箸で喰ぶ 上五と上五逆でも良い

混用は良くない どちらかに

恵美子

秋探る浅瀬に群るる鯉の口

豊隆

初恋の来た道はるか紅芙蓉

宣子

鯉の影 曲線幾重 水の秋